



「壺口瀑布」 絵/文 白澤 恵舟

中国は西安市の北方遠くに、荒々しい瀑布がある。  
黄河のど真ん中にできた壺のような深みに、黄濁した大量の水が猛烈な勢いで流れ落ちる。  
人は飛沫をかぶり、引き込まれるような恐怖に襲われながら、自然の偉大な造形に感動する。

## 平田篤胤

会長 菅原三朗

地元医師会の主催で講演をされた、日本赤十字社医療センター名誉院長の森岡恭彦先生が、その後段で平田篤胤のお話をされました。

東京代々木の森岡家の真ん前に平田篤胤神社があり、平田家5代目の人が隣家で、先生は平田篤胤神社の氏子責任総代もつとめている。そんなことで「平田篤胤とは縁があるんです」とのこと。

昭和62年9月に東大附属病院院長の時、昭和天皇の執刀医となったら天皇の手術は前例がなく、玉体にメスを入れてはならないと主張する一派から身辺を警護するための警官配備となりました。手術の当日新聞記者がいっぱい外で待っていて、私が出たら平田家の6代目の方が「昨日先生のためにお祈りしてお守りを容易しましたから」と私に渡してくれたんです。平田神社がすぐ前ですから拝まざるを得ないで拝んだ写真が新聞に載ったんです。手術後私も気持ちが悪かつ

たんですけど、この記事のお陰で右翼対策になり潮を引くように代々木に平和が戻ったんです。

秋田市の彌高神社では篤胤と佐藤信淵と二人を祀っていますが、篤胤を祀る神社は全国に4つくらいあります。

平田篤胤という人は一言で語るのには難しい人です。いろいろな要素があり活動範囲もものすごく広いんです。秋田藩士の四男で20歳で江戸に出て、苦勞して平田家に養子に入り活躍をしますが、最後には江戸から追放されてしまう。当時は鎖国の世の中ですが、イギリスやアメリカあるいはロシアなどが日本にやってきて開国を迫っていた。ペリーが来たのは篤胤が死んだ後ですが、こういう状況の中で平田篤胤は危機感を持っていて、日本人本来の精神を持って対処しなければならないと考えた人だろうと私は思っています。

篤胤の書いたものは100冊くらいあって、私も全部読んでいません。最初の書は若いときに書いたもので、あいつはあんなことを言っけしからん、というようにある人を攻撃した本です。あとは日本にはどういう神様がいて、国体はどうなっているのかというものです。これは古事記や日本書紀を基にしたもので、いずれにしても、日本というのは天照大神か

ら始まって、万世一系の天皇の下で、そういった国体を中心に日本は発展してきた、いわば天皇崇拜思想も見られます。そもそも江戸も中期になると古いものも見直さなければいかんという考えがあって、当時は本居宣長からの、いわゆる国学者は万葉集、古今集とか昔の和歌を重要視して、もののあわれとか、そういう大和心を日本人は大事にしなきゃならないということを言ったんです。

平田篤胤は情緒的じゃなくて神代からつながっている社会体制があるんだとか論理的なんです。篤胤はものすごい読書家で、中国のことからオランダやインドのことまで、いろんな本を読んでいるんです。外国のことを十分勉強してから日本のことを論議しなくてはいかんということで、結局は日本人という特有なバックボーンを持って西洋のいいところを日本に導入すべきという考えが見られます。当時、外国からいろんな干渉を受けて、中国なども西洋に植民地化されたわけですね。それに対して日本はどうしたらいいかっていう危機感がその基にあったんだろうと思います。

続きは次の機会に。

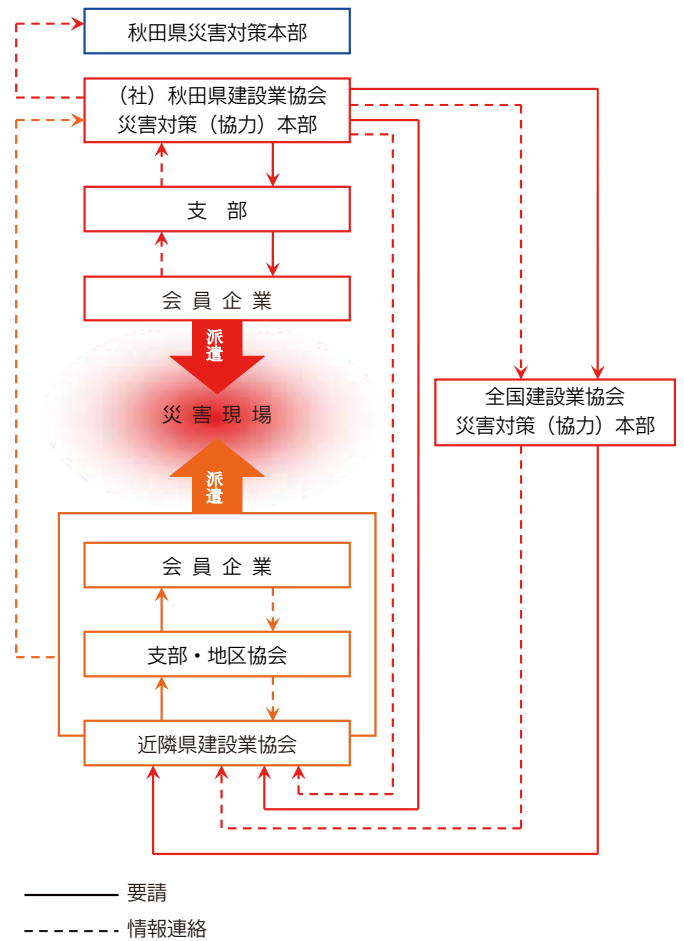
# 災害対策(協力)本部を設置

## 東日本大震災における復旧協力体制を構築

県協会では、3月17日、の東日本大震災の発生に伴い災害対策(協力)本部を秋田県建設業会館に設置。行政機関、支部、全国建設業協会災害対策(協力)本部、近隣県建設業協会との情報連絡を行い、要請に応じて被災地への人員・資機材等の派遣を行う。



(社)秋田県建設業協会 災害対策支援連絡体制



# 平成22年度秋田県人材確保・育成推進協議会

2月3日、秋田県人材確保・育成推進協議会(会長:川上洵秋田大学教授)が秋田ビューホテルで開催され、行政、教育、建設業から委員が出席し、建設業における人材対策等について協議を行った。

会議の冒頭、川上会長は日本国内及び秋田県の今後30年の人口減少に触れ、シンクタンクの試算によると建設産業の従事者も大幅に減少する見込みであることを紹介し、これを踏まえた長期スパンで

の人材育成を考えていかななくてはならないと述べ、産学官の知恵を集結して問題に立ち向かいたいと挨拶した。

議事では始め、平成23年4月の新卒者採用予定、同年3月卒業する高校生の建設業への就職状況について話し合わせ、高校で行われている内定者と採用企業とのコミュニケーションの取り組みや建設企業における新卒者の採用辞退や離職の事例が紹介され、委員からは企業において人

材育成にコストがかかることを生徒が理解すること、高校と建設業との連携を深めることが解決の糸口になるとの意見が挙げられた。また、秋田県内の雇用失業情勢においては、若年者の早期離職が話題となり、若年者でも技術を身に付けて社会に提供できなければ再就職は困難との声も挙げられた。

## 職員人事のお知らせ

●本部

- [任命]主任 → 業務係長 三浦和幸 (4月1日付)
- [任命]主任 → 業務係長 今野真弥 (4月1日付)
- [任命]主事 → 主任 藤谷清仁 (4月1日付)
- [退職]雇用改善コンサルタント 菊地正幸 (3月31日付)
- [採用]雇用改善コンサルタント 菊地 徹 (4月1日付)

●北秋田支部

- [退職]事務局長 戸嶋完治郎 (3月31日付)
- [任命]参事 → 事務局長 萬 正一 (4月1日付)

●山本支部

- [退職]事務局長 武田 和人 (3月31日付)

●秋田支部

- [退職]業務課長 舟木 隆夫 (3月31日付)
- [採用]業務課長 相澤 芳樹 (4月1日付)

●仙北支部

- [退職]嘱託職員 打川 京美 (3月31日付)

●平鹿支部

- [採用]事務局次長 加賀屋好宣 (4月1日付)

# 23年度 公共工事設計労務単価

秋田県 主要職種で前年比平均97.9%

国土交通省は、同省及び農林水産省及び平成22年10月に実施した公共事業労務費調査に基づき、平成23年度当初からの公共工事の工事費の積算に用いるための公共工事設計労務単価(基準額)を決定、3月25日に公表した。

東北6県における主要職種の労務単価・前年比は表のとおり。

資料掲載先: 国土交通省ホームページ・報道発表資料  
[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo14\\_hh\\_000193.html](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo14_hh_000193.html)  
 (問い合わせ先: 国土交通省総合政策局建設市場整備課)

## 県別主要職種の労務単価

(増減は前年度比) (単位: 円)

| 職種      | 青森県    |       | 岩手県    |       | 宮城県    |       |
|---------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
|         | 前年比    | 前年比   | 前年比    | 前年比   | 前年比    | 前年比   |
| 特殊作業員   | 15,900 | △ 300 | 14,300 | △ 200 | 14,500 | △ 300 |
| 普通作業員   | 11,600 | △ 300 | 11,800 | △ 300 | 11,100 | △ 200 |
| 軽作業員    | 8,700  | △ 200 | 8,700  | △ 200 | 8,700  | △ 200 |
| とび工     | 13,600 | △ 300 | 12,600 | △ 300 | 13,100 | △ 300 |
| 鉄筋工     | 14,400 | △ 400 | 13,900 | △ 300 | 15,500 | △ 400 |
| 運転手(特殊) | 17,200 | △ 300 | 15,700 | △ 300 | 15,800 | △ 300 |
| 運転手(一般) | 15,500 | △ 300 | 13,300 | △ 300 | 14,200 | △ 200 |
| 型わく工    | 16,700 | △ 400 | 16,100 | △ 400 | 16,700 | △ 400 |
| 大工      | 14,500 | △ 400 | 14,400 | △ 300 | 14,500 | △ 400 |
| 左官      | 14,700 | △ 400 | 15,000 | △ 400 | 15,200 | △ 400 |
| 交通誘導員A  | 7,100  | △ 100 | 7,100  | △ 200 | 7,900  | △ 200 |
| 交通誘導員B  | 6,300  | △ 100 | 6,700  | 100   | 7,200  | △ 100 |
| 平均増減率   | 97.8%  |       | 97.8%  |       | 97.8%  |       |

| 職種      | 秋田県    |       | 山形県    |       | 福島県    |       |
|---------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
|         | 前年比    | 前年比   | 前年比    | 前年比   | 前年比    | 前年比   |
| 特殊作業員   | 14,600 | △ 300 | 14,200 | △ 200 | 13,900 | △ 200 |
| 普通作業員   | 11,400 | △ 200 | 11,000 | △ 200 | 10,700 | △ 200 |
| 軽作業員    | 9,100  | △ 200 | 9,400  | △ 200 | 9,200  | 200   |
| とび工     | 13,000 | △ 300 | 12,900 | △ 300 | 14,200 | △ 300 |
| 鉄筋工     | 14,400 | △ 400 | 14,500 | △ 400 | 14,800 | △ 400 |
| 運転手(特殊) | 16,000 | △ 300 | 14,600 | △ 300 | 12,900 | △ 300 |
| 運転手(一般) | 15,500 | △ 300 | 13,300 | △ 300 | 11,600 | △ 300 |
| 型わく工    | 14,400 | △ 300 | 14,500 | △ 400 | 13,600 | △ 300 |
| 大工      | 15,700 | △ 400 | 13,600 | △ 300 | 15,000 | △ 400 |
| 左官      | 14,500 | △ 400 | 14,000 | △ 300 | 14,200 | △ 300 |
| 交通誘導員A  | 7,100  | △ 100 | 7,600  | △ 200 | 8,400  | △ 200 |
| 交通誘導員B  | 6,400  | △ 100 | 7,100  | △ 200 | 7,700  | △ 200 |
| 平均増減率   | 97.9%  |       | 97.8%  |       | 98.1%  |       |

(財)建設業福祉共済団から 建退共秋田県支部から

※上記の記事はホームページに掲載されています。

<http://www.a-kenkyo.or.jp>

# 秋田水風景

文と写真/加藤隆悦

フリーカメラマン兼フリーライター  
 取材・執筆歴/旅の手帖、WoodyLife、ベンチャー・リンク、郷、あるる他  
 海外取材歴/ドイツ、アメリカ、ブラジル  
 写真塾・写楽 主宰/写真教室、撮影ツアー企画等

## Vol.21 道川大滝

【みちかわおたき】  
秋田市上新城



秋田市の北東の郊外の、市街地からもさほど離れていないところに、市が整備する大滝山自然公園がある。公園と言っても、特に何か充実した設備があるわけではなく、田舎ならどこにもありそうな普通の里山のたたずまいだ。

しかし、その「まったく感」はなかなか悪くなく、あたたかい季節であれば、気晴らしの近場ドライブ、ピクニックのスポットとして覚えておいてもいいだろう。

公園の入口には日帰り専門の「大滝山温泉」があり、我が家でも散歩と温泉浴を兼ねてこの辺りまで足を延ばすことがある。

冬になると公園内は除雪をしないので、温泉のところどころでクルマは行き止まりとなる。オフロード車や、かんじき或いはクロスカントリースキーを履けば、その先に進むことも不可能ではないが、低山とはいえ雪山に変わりはなく、くれぐれも無茶はされないようにお願いしておきたい。

ところが私には、「無茶をする友人」がいるのだ。ある日も、彼の運転する4WD車に乗って温泉の前までたどり着くと、「行けるところまで行ってみよう」と、言い出す。軽の4WDは、深い雪の上を泳ぐようにして先に進む。いよいよ雪も深くなってきて、これ以上の前進は断念せざるを得ないところまで来た時、幽かに滝の流れる音が聞こえてきた。大滝山自然公園のシンボルの存在・道川大滝だ。

せっかくなので来て、真冬の道川大滝の写真を撮らないで帰る手はない。でもクルマはもう先に進めない。しかたない、クルマを降りて徒歩で(何も準備していないので)雪を漕いで「前進するしかない」。

八甲田山の教訓も虚しく、人はしばしば雪山で無謀な前進を試みるものだ。

無謀な雪中行軍のお陰で、滅多に撮れない凍った滝を撮ることは出来たけれども、皆さんもくれぐれも無茶はなさらないように。

## 謎めく猿穴噴火口

藤原 優太郎

鳥海山の西麓、秋田と山形の県境付近に「猿穴」という古い噴火口がある。

今では低灌木に覆われた山の中のぼっかり窪地の猿穴は、成層火山（噴出した溶岩や火山灰が噴火口のまわりに堆積して層を成した火山の形態）の鳥海山の火山運動によって出来たもので、地図上にその名も記されている。

今、九州では新燃岳が盛んな噴火活動を見せ、異常なまでの火山灰に悩まされている。日本列島は火山や地震が多く、いつどこで牙を剥くか分からない自然災害に脅かされている。

火山を話題に鳥海山猿穴の謎に少しふれてみたい。鳥海山の火山や氷河について研究を重ねた加藤萬太郎氏（故人）の『鳥海山と東北の氷河期』という研究著書によれば、猿穴を含む西鳥海火山体が形成されたのは20万年前から10万年前の地質時代、鳥海山が成層火山を形成した以後のことである。この西鳥海火山体の一連の噴火活動末期、7合目御浜のまわりの鍋森や扇子森、大平、それに小爆裂火口の鳥ノ海（鳥海湖）などが出来たものという。

猿穴火山の噴火では小砂川から三崎公園まで大量の溶岩が噴出した。今でもこの付近では有名な鳥海石の採石が盛んに行われている。小さな三角錐を見せる観音森も猿穴火山の一部である。

猿穴へは象潟大須郷から観音森を経由して行くことができるが、積雪期以外はアプローチが難しい。鳥海ブルーラインの吹浦口の途中からも道らしいものもある。

旧噴火口は直径およそ100メートル、深さは20メートルほどのスケールで大きな窪地となっていて周囲は低灌木に覆われている。3月、雪の季節にこの猿穴探検をしたことがある。どうして猿穴の名がつけられたかは不明だが、猿でもないに登り降りできないという意味だろうか。

謎めいた猿穴の噴火口に近付くと、明治の文豪、夏目漱石の『二百十日』を思い起こす。圭さんと碌（ろく）さんという二人の

主人公が阿蘇火山を旅する物語である。真っ赤に火柱を上げる御山、阿蘇山を目指す二人は、途中で「よな」という雨混じりの火山灰をものともしなかったが、途中で道に迷い、剛健な圭さんがススキの道を踏み外し大きな穴に落ちる。溶岩の穴の中とその上で逡巡しながらも日没間近、ようやく難を逃れる。その日は二百十日であったという。

小説『二百十日・野分』（夏目漱石・新潮文庫）の一部を抜粋してみよう。

圭さんはのっそりと踵をめぐらした。孤立して悲痛な様の二人は無人の境を行く。（中略）圭さんも碌さんも、白地の浴衣に、白の股引に、足袋と脚絆だけを紺にして、濡れた薄をがさつかせて行く。腰から下はどぶ鼠のように染まった。腰から上といえども、降る雨に誘われて着く、よな（火山灰）を、一面に浴びたから、ほとんど下水に落ち込んだと同様の始末である。

最初のうちこそ立ち昇る噴火の煙を正面に見て進んだが、しだいに火山灰を横から受けるようになり、噴火口がいつの間にか後ろの方に見えだして道を間違えたことに気づく。その後、圭さんが穴に落ちる。二百十日に山入りしたための天罰てきめんであった。

余談だが、小説主人公の一人、碌さんの名をいただいた有名な彫刻家がいる。信州安曇野に「碌山美術館」があるが、荻原碌山がその人である。

猿穴という謎の噴火口は誰でも近付ける場所ではないが、こうした火山地形が鳥海山のまわりにあることは、探検好きにとっては絶好の遊び場となっている。

